

# 西国三十三霊場巡りマラニック 第十四番 長等山 三井寺

十九年十二月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

三井寺は天台宗の総本山で、本尊は如意輪観世音菩薩、壬申の乱で敗れた弘文天皇の菩提を弔うため、皇子の大友与多王が天武15年(686年)に寺を建立したのが創始と伝えられている。

「観音堂」に安置されている本尊「如意輪観世音菩薩」は平安時代の作とされ、三十三年毎に開扉される秘仏である。三重塔は、室町時代初期の建築で、もとは奈良の比蘇寺にあったもので慶長6年(1601年)に徳川家康によって寄進されたといわれている。「金堂」の西南側に「霊鐘堂」が建っており、この建物の中には「弁慶の引き摺り鐘」と「弁慶の汁鍋」が置かれている。残念ながら「金堂」は修理中だった。

